

さくら呉服橋ビル（旧・日本相互銀行本店）に関するご報告

2008年 1月 8日

社団法人 日本建築学会
関東支部長 片桐正夫 様

株式会社三井住友銀行
頭取 奥 正之



拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は当ビルに関する保存の要望書を戴き、誠にありがとうございます。要望書の内容も踏まえ、弊行として検討を重ねてまいりましたが、以下のような結論に至りましたこと、ご報告申し上げます。

ご指摘のように、さくら呉服橋ビルはわが国の近代建築の発展に大きな足跡を残した前川國男先生の代表作品として、1952年旧日本相互銀行本店として竣工し、翌1953年には日本建築学会賞を受賞、2003年にはDOCOMOMO100選にも選定されております。この間、今日に至るまで維持保全・改修をしながら運用してまいりましたが、老朽化も著しく、このままでの運用は困難な状況ではないかとの考えのもと、前川國男先生の遺志を継承される前川建築設計事務所のご指導、ご協力を得て、建物として安全に機能、存続する可能性の調査、検証を進めてまいりました。

その結果、外壁PCパネル・カーテンウォールとも、度重なる補修で当時の外観をとどめていないこと、原設計による固定方法や各部ディテールにおいて層間変位に対する追従性がないこと、雨処理や水密性等外壁材としての機能性に課題を残すことなどが確認され、現代技術に準じたディテールに改良する必要性が指摘されました。また設備インフラの整備にむけては基準階フロアの階高による制約が大きいことにより基幹設備更新が難しい状況であることなども指摘されました。

こうした所見や指摘を受け、この建物の歴史的評価、弊行の社会的責任などを踏まえ検討を重ねて参りましたが、前川建築設計事務所のご指導も踏まえ、弊行の総意として、当ビル原型保存の道ではなく、建替えの道を選択し、早期の解体撤去已むなしと、最終決断した次第であります。

以上、貴会から要望された当ビルそのものの保存の道にお応えすることは叶わぬ結果となりましたが、弊行としては引き続き前川建築設計事務所のご指導、ご協力をいただきながら、近代建築歴史上の要とも言うべき当ビルの存在を解体時における建物内部調査を含めた建物記録の作成、外壁・柱などパーツの保存など後世に伝える努力を講じて行きたいと考えておりますので、何卒、ご理解賜りたく深くお願い申し上げます。

敬具